

図書館は 宝の山

岩手県立図書館長 吉川 健次



1. 図書館は、宝の山

図書館の勤務は、初めてである。県立図書館は、指導課(現学校教育課)在任中、議会に関係したことを調べたために数回利用したことがある。

前任であった生涯学習文化課の業務に関する本も山ほどある。最近発売された本はもちろんのこと、書店ではもう販売していない本まで、系統的に所蔵されている。

さらに、個人の調査・相談に応えるレファレンスまで行っている。

私は今まで、自分の読みたいものを書店で購入し、それで十分と思っていた。

赴任してみて、なぜもっと利用しなかったのか、もったいないことをしたものだと思いつく思っている。

また、図書館は、あらゆる年代層の利用者に対応できるよう配慮されている。特に幼児・児童のために「わかば読書室」を用意し、絵本から紙芝居、読書の課題図書、調べ学習に適応した本、百科事典などが開架されている。

土日には、お話会や映画会、中央からの配信「子ども放送局」も行っている。

中高校生のためにヤングアダルトコーナーを特設し、閲覧室も設けている。

また、一般の本、雑誌ばかりでなく、郷土に関する本、音と映像に関したもの(AV資料)の貸し出しや市町村を中心とした団体貸し出しも行っているのだ。

私は特別利用していなかったのかもしれないが、声を大にして言いたい。「是非、図書館の利用を！」

2. 最近の県立図書館について

平成13年に「子どもの読書活動の推進に関する法律」が施行された。平成16年3月には県でも「いわて子ども読書プラン」が策定され、平成16年度から本格的にその事業が推進されつつある。

平成14年度から小(3年生から)・中・高校(平成15年度から)で、総合的な学習の時間が導入されたことに伴い、児童・生徒の県立図書館の利用も増大してきている。今後ますます児童・生徒の「自分で課題を見付け、自分で解決していく」力が備わっていくと思う。

平成15年度から12学級以上の学校に司書教諭が配置され、学校図書館運営が充実された。学校における読書活動と情報化の飛躍的な発展が期待される。

県立図書館では、平成15年10月から「図書情報システム」が稼働した。今までは、カードで図書資料を検索していたものが、コンピュータで瞬時に在処がわかるのである。館内はもちろんのこと、市町村立図書館、インターネットに接続している各家庭からも検索できるほか、検索システムを備えている県内の市町村、大学図書館の蔵書も「横断検索」が可能である。

また、平成16年度からは、片道ではあるが、市町村立図書館等へ県立図書館の図書資料を搬送する事業が開始された。(細々とではあったが今までもあった。)

メールマガジンの配信も平成16年1月から行っており、催事情報(展示会、映画会、おはなし会、子ども放送局の案内)などを紙媒体だけでなく県民に知らせることができている。現在は、月1回、800名ほどに配信している。手続きも簡単であり、今後、広めたい。

3. 新県立図書館について

現在の図書館は老朽化、狭隘化がいわれ、駐車スペースも少なく、新館建設が待たれていたが、平成18年度に盛岡駅西口複合施設内に「新県立図書館」開館の見通しである。

駅西複合施設は、地上9階地下1階であるが、その内、新県立図書館は1階から4階までで、現在の図書館の延床面積の約3倍(10,031㎡)。蔵書冊数も開館時は62万5千冊、年間開館日数、開館時間も延長する予定である。

市町村立図書館の支援はもちろんのこと、県民がより、利用しやすい施設としてオープンしようとしている。

図書館・公民館図書室等実態調査によると、平成15年度の岩手県民一人当たりの読書冊数は3.8冊であるが、これを機会に新県立図書館に一人でも多く足を運んでいただき、一冊でも多く読んでいただければ幸いである。

4. これから

郷土コーナー(各市町村のパンフレット、市町村の歴史、小中学生用歴史副読本、各県立高校の紹介、地方振興局の紹介など)とビジネスサービスを充実させ、「図書館に行けば、何かヒントが見つかる」そんなところにしていきたい。